

鎌ヶ谷市政策評価表

政策の名称	22快適な暮らしの環境をつくります		
基本目標	2「自然と社会が調和する環境共生都市」をめざして	政策担当マネージャー	市民生活部長
重点政策該当有無		マネージャー氏名	高岡 敏和

I 改革・改善内容(=政策をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	施策の実現には多額の経費と相当の期間を要することから、施策の効果が短期間で発現できるような計画の策定と財政状況や事業優先度を踏まえた上で、事業を進めていく必要があります。	③改革・改善内容	環境共生都市を目指した、栗野の森(第2期)の整備や下水道の整備をはじめ、居住環境・緑地保全・水辺環境・環境衛生の充実、整備など、引き続き事業の優先度を捉えた事業を推進していく必要があります。
②①に基づく取り組み結果	栗野の森(第1期)、東道野辺ふれあいの森の整備や南初富貯留池の整備などによる生活環境の整備を行いました。		

II 政策の目的・概要

①目的	対象	市民、事業者、団体等	意図(対象をどうするのか)	市民等が緑に包まれた居住環境の中で、安全で快適で文化的な生活を送れるようにします。
②政策の概要	すべての市民が緑に包まれた居住環境の中で、安全で快適で文化的な生活が送れるように、良好な住環境の整備、快適な公園・緑地の整備、うるおいのある河川・水路の整備、上下水道の整備、清潔な生活環境の整備を行っていきます。			
③環境分析(状況変化や今後の見込み・市民意向など)	東日本大震災後の住宅の耐震化や地球温暖化対策として緑への関心の高まり、またゲリラ豪雨や台風に備えた河川水路の治水安全度の向上などの施策に対する市民や議会の意見は、より一層の充実が求められています。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成26～27年度の施策の成果	栗野の森(第1期)、東道野辺ふれあいの森、川慈公園の整備、二和川などの河川水路整備、南初富貯留池整備や公共下水道の整備など着実に成果をあげています。			
------------------	--	--	--	--

②施策成果指標	指標名称		単位	平成25年度	平成26年度	平成27年度	目標値(27年度)	目標値(32年度)
	1	工事完了検査率	%	94.9	100	92.0	88.0	100
2	無料耐震診断相談会申込者への診断実施率	%	100	100	100	100.0	100	
3	市民一人あたりの公園面積	m <sup>2</sup> /人	2.8	2.9	2.9	3.3	3.8	
4	浸水面積	ha	124.6	124.5	123.5	123.9	121.1	
5	浸透柵設置個数	基	6,411	6,587	6,679	6,800	7,800	
6	上水道普及率	%	76.5	76.5	集計中	上昇	上昇	
7	下水道普及率(処理区域内人口/行政区域内人口)	%	57.4	59.0	62.8	60.0	68.0	
8	下水道水洗化戸数	戸	25,111	25,665	27,460	25,500	29,300	
9	生活排水処理率	%	74.4	76.6	76.9	88.0	94.2	
10								
11								
12								
13								
14								

③政策の事業費	平成26年度決算	平成27年度決算	市民一人あたり事業費(27年度決算)	平成28年度予算
事業費(千円)	3,512,892	3,507,635	32	4,106,971

IV 評価・検討

①課題	環境衛生の充実のため、公共下水道や合併処理浄化槽の普及促進及び下流側の河川整備が大きな課題となっています。		
②総合評価	3一部未達成	③総合評価の理由	施策成果指標では、良好な住宅、上・下水道の整備の充実において、目標値を達成できていますが、快適な公園・緑地環境の整備や環境衛生の充実において、目標値を達成できていないことから、更なる施策の充実が必要なため。

V 今後の方向性

①成果の方向性	↑ 向上	②コストの方向性	↑ 増加
③特に重点化する施策	施策3 うるおいのある河川・水路の整備		
④上記方向性の説明	当面は、ハード面での河川、水路、貯留池の整備と適切な維持管理により、市民が水害に対し、安心して生活できる必要があります。		